

<学びの教室コラム> 「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト

「縁」を大切に

寺坂朋浩

1 はじめに

このたび、鳥取大学より「教職課程を取っている生徒向けに講義をしてほしい」という依頼をいただいた。今回いただいたお話は、慌ただしく時間に追われる毎日の中、自分自身の教員生活を振り返るきっかけとなり、自分が教師としてどのように生きてきたのかを振り返るいい機会となった。

また、5年前にも鳥取大学から同様の依頼を受けて、講義をさせていただいたことも今回引き受けさせていただいた理由の一つでもある。その時の講義を受講した学生さんとその後、中ノ郷中学校で同僚として勤めたことがあった。今でもその時の私の話を覚えていると言ってくださり、とてもありがたかった。

教師にはたくさんの仕事があるが、最大の仕事は「人を育てる」ことであると思う。そして人との「縁」というものはかけがえのないものである。その学生さん（のちの同僚）は「縁」があつて私の講義を受講し、「縁」があつて同じ職場に勤めることになった。もしかしたら数年後、今回の講義を受けた方とも一緒に勤めることがあるかもしれない。そういう機会があれば嬉しく思う。

2 たくさんの出会い

今回の講義の中で「みなさんはなぜ教師になりたいのですか？」という質問をさせていただいた。「子どもが好き」「誰かの役に立ちたい」「楽しそう」「人に何か教えることが好き」「安定している」など、たくさんの意見が出てきた。その中に「先生との出会い」をきっかけに教員を志したということを書いていた学生の方が何人かおられ、読んでいて心が温まるものがあった。かくいう私自身も中学校で担任してくださった先生（中学2，3年次）との出会いをきっかけに、教員を目指すようになったのである。思いやりがあり誠実、親しみやすい先生であった。特に中学3年生の受験期には、進路に悩む私のために、力を尽くしてくださった。そんなやり取りの中、「教師」という職業に強い関心を持ち、教師を志した。

それから月日が流れて教員生活も18年が経った。その間、数えきれない程の生徒の巣立ちに立ち会った。ありがたいことに卒業の際に私のところに来てくれて「将来英語の先生になります」（私の担当教科が英語である）と言って卒業していった生徒もいる。実際に教え子と共に働き、当時の昔話に花を咲かせたこともある。教員にとって「出会い」とは自分自身を成長させてくれるものでもある。「縁」があつてできたつながりを大切にしたいものである。

3 強みを持つ

どの職業にも適正というものがある。どうせなら自分の強みを生かせる職に就きたいものである。私がもし「教師以外の仕事をするとしたら何ができる？」と問われたら答えにとても困る。前述した「子供が好き」「人に何かを教えることが好き」ということも教員として大きな強

みになる。私自身の強みは、生徒と共に楽しむことができたりどんな話題であっても生徒の話に興味を持って聞くことができるところだと思う。人それぞれ個性や強みがあり、自分の適性を生かせる仕事に出会えることは幸せなことだと思う。講義の最後にも伝えさせてもらったが学生のみなさんには学生である今、様々なことを経験し、チャレンジし、自分の可能性を広げていていただけたらと思う。そして就職される際には、自分の強みは何だろう？と自分に問いかけてみてはいかがだろうか。

4 おわりに

5年前にさせていただいた「学びの教室」は50名ほどの学生さんが参加してくださった。今回の話をいただいた時も同様の規模かと思っていたが、約180名もの学生さんの参加があった。最初は前回との違いは驚いたが、今回の学生さんも私の話を真剣に受け止めてくださり、活動にも意欲的に参加していただき、感謝している。講義が終わった後で、何人かの人が質問に来てくださったこともうれしかった。

教員の仕事は決して楽ではないし大きな責任のある仕事である。しかし、これだけやりがいのある仕事はないと思っている。今回の私の講義を通して、「やっぱり教員になりたいな」「教員って楽しそうだな」と思っていた方がいたらとてもうれしく思う。またいつかどこかで今回の私の講義に参加してくださった学生の方と一緒に勤める日が来ることを楽しみにしている。

寺坂朋浩（鳥取市立中ノ郷中学校教諭）